

あびらの文化

発行人  
美崎 大洋  
我孫子市  
高野山  
250-23  
04(7182)  
0861

### 令和元年度総会終了

5月26日、午後3時半からアビスタ第4学習室にて令和元年度の総会が開催された。

司会の村上智雅子氏の開会宣言の後、伊藤一男副会長が議長に選出され、議案の審議に入った。当日提示された議案と採決の結果は以下の通り。

#### 第1号議案 平成30年度事業報告

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会(五月十九日)
- 四、史跡文学散歩の実施
- 五、放談くらぶの開催

#### 第2号議案 令和元年度事業計画(案)

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会(五月二十六日)
- 四、史跡文学散歩の実施(6、9、11、3月予定)
- 五、放談くらぶの開催
- 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回)
- 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 八、文化活動関係団体との連携協力
- 九、プロジェクト活動への全員参加を進める
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、我孫子市生涯学習出前講座の講師派遣

#### 第3号議案 役員選任(案)

- (相談役) 藤井 吉彌、(会長) 美崎 大洋
- (副会長) 伊藤 一男、越岡 禮子、村上 智雅子

#### 第4号議案 令和元年度事業計画(案)

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会(五月十九日)
- 四、史跡文学散歩の実施(6、9、11、3月予定)
- 五、放談くらぶの開催
- 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回)
- 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 八、文化活動関係団体との連携協力
- 九、プロジェクト活動の活性化
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、我孫子市生涯学習出前講座の推進

#### 第5号議案 令和元年度予算(案)

稲葉会計幹事から説明があり、原案通り可決承認された。

#### 第三十九回記念文化講演会を開催

#### 令和元年度決算及び監査報告

平成30年度決算及び監査報告  
決算の内容について稲葉義行会計幹事から説明があり、その後芦崎敬己監査役から「適正に処理されている」との監査報告があった。その後採決の結果、原案通り可決承認された。

(幹事) 戸田 七支、斉藤 清一、佐々木 侑  
佐藤 やす子  
(会計幹事) 稲葉 義行  
(監査) 飯高 美和子、芦崎 敬己

採決の結果、提案通り可決承認された。

#### 令和元年度事業計画(案)

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会(五月二十六日)
- 四、史跡文学散歩の実施(6、9、11、3月予定)
- 五、放談くらぶの開催
- 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回)
- 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 八、文化活動関係団体との連携協力
- 九、プロジェクト活動の活性化
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、我孫子市生涯学習出前講座の推進

以上の事業計画(案)について美崎会長から示され、その後、採決の結果、原案通り可決承認された。

#### 令和元年度予算(案)

稲葉会計幹事から説明があり、原案通り可決承認された。

#### 令和元年度決算及び監査報告

平成30年度決算及び監査報告  
決算の内容について稲葉義行会計幹事から説明があり、その後芦崎敬己監査役から「適正に処理されている」との監査報告があった。その後採決の結果、原案通り可決承認された。

#### 令和元年度事業計画(案)

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会(五月二十六日)
- 四、史跡文学散歩の実施(6、9、11、3月予定)
- 五、放談くらぶの開催
- 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回)
- 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 八、文化活動関係団体との連携協力
- 九、プロジェクト活動の活性化
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、我孫子市生涯学習出前講座の推進

#### 令和元年度予算(案)

稲葉会計幹事から説明があり、原案通り可決承認された。

初めに我孫子市にゆかりのある嘉納治五郎先生の功績について触れ、その後嘉納師範が遺された理念「精力善用」「自他共栄」を熱く話された。今回の講演会の内容について「子育て世代の親御さんと子供たちに向けて話して欲しい」との事前の要望に沿って、会場のスクリーンを利用して絵本『ミッチのあいことば』を拡大して映し、読み聞かせが始まる。それまで退屈そうにしていた子供たちの表情が変わり、スクリーンに釘づけになった。読み聞かせ後再び坂東館長の話に移る。

「柔道は強くなるためだけにやるものではない。強くなるということは、相手を守れるということ。優しくなれるということなんだ。」と話されました。

会場には器械体操用のマットが敷かれており、マットの上で柔道の技を披露することに。「技を見せるといふことは、実は受け(受身)が大事。受けの力量によって、技の見え方が変わってくる」とのこと。館長秘書の



近藤ともこ氏が館長を投げる演技を披露。実際に柔道の技を目にしたことで子供たちも興味を持ったよう。男の子、女の子がひとりずつ坂東館長を投げた。

「礼」には相手を敬う気持ち、感謝の心が込められており、「柔道のこころ」を体現することから、会場の全員が坂東館長の指導のもと「美しい礼」の実践をした。」

## 参考絵本『ミッチのあいことば』

原案

坂東真夕子

近藤ともこ

文・絵

渡辺千春

「この本を手にとってくれたあなたへ」

「柔道は嘉納治五郎という一人の日本人によって創られた武道です。小さなお寺の一角を間借りして始まった柔道は、国境を越え、世界中の人々に愛され尊敬される武道となりました。」

柔道はただ単に相手を投げたり、抑え込んだりするだけではなく、その根底には嘉納治五郎が説いた思想哲学があります。嘉納治五郎が遺した言葉の数々は精神性に溢れ、示唆に富んでいます。その代表的な言葉の一つが、柔道の基本理念と言われる「精力善用 自他共栄」です。嘉納治五郎が柔道を創つてから約140年経つた今、私たちは科学技術の発達により便利で快適な生活を手に入れました。しかし、その便利さと快適さと引き換えに、私たち人間は大切な何かを失ってしまった。そんな気がしてなりません。自分のことだけを考え、いつもイライラ、他人に無関心……そんな人たちが溢れる世界は想像しただけでぞつとします。世のため人のために尽くそうとする気持ち、他者を思いやる気持ち、譲り合う気持ち「精力善用 自他共栄」は人が生きていく上で大切な言葉です。こんな現代社会こそ、嘉納治五郎が説いた思想哲学が必要なのではないでしょうか。」

## ◎お知らせ

9月15日(日)の「市民のチカラまつり2019」で坂東先生の同様のパフォーマンスが行われます



ミッチの  
あいことば  
あるじゅうどうの  
おはなし

ぶんご  
わたなべちはる  
えんご  
ばんどう まゆこ  
こんどうともこ

(寄稿)  
絵の先生は「嘉納治五郎の孫娘」

荒井 茂男(市史研会員)

「我孫子市史研究センター会報第二〇六号」(平成31・4・26発行)に美崎会長が寄稿した「嘉納家と我孫子の関係は六〇年一治五郎死後、別荘は自宅だった」を読み、昔の断片的な記憶が繋がった。

寄稿文の要旨は「昭和13年、治五郎が亡くなると、治五郎が残した多くの借金のため自宅や多くの所有地を処分せざるを得なかった。唯一残った我孫子の別荘に未亡人須磨子と三男履方、須磨子の実家を継いだ竹添履信(洋画家・歌人、昭和9年、37歳で死去)の未亡人・いち子が長女祐子、長男信之と共に移り住んだ。須磨子は昭和20年、履方も同21年列車事故で死去(34歳)。翌年生まれた履方の遺児とその母・波子は、昭和44年、別荘が他人に移るまで住んだ。また、治五郎の二女・忠子の長男・生源寺順(かず・生源寺家は治五郎の父の実家)の長男・廷の娘さん達も昭和35年まで別荘で暮らした。さらに履方の子供(男性、治五郎の孫は、その後もこの別荘に住み、我孫子第一小学校を卒業したという。故に嘉納家と我孫子の関係は60年におよぶことになる。」というものである。美崎会長の根気のいる調査に感謝です。

何年生の時かは、はっきりしないが、私は友人に誘われて、この別荘に住む女性に「絵」を習いに行つたことがある。鬱蒼と茂る木々の中の広いお屋敷、庭に面した明るい部屋。30歳台(?)と思われる落ち着いた感じのお嬢様がその先生でした。

しかし先生のお名前や、誰の誘いで行つたか、何歳の時だったかなど、全く不明でした。「嘉納治五郎の孫娘が先生だ」「きれいな人らしい」「じやあ行くか」「行くべ」と、そんな調子だったのだろう。好奇心、面白半分の気持で行つたのだ。尤も私は絵を描くのは好きだったが……昭和35年か36年の短期間、私が小学校五年生か六年生の頃の出来事と思う。

「治五郎の孫娘」という曖昧なイメージの記憶のみが心の中に残っていた。一方で、当時、映画「姿三四郎」(昭和18年、30年、40年、45年、52年と5回制作)やテレビドラマ「柔」(昭和39年、美空ひばりの歌は同年レコード大賞を受賞)のヒットなどで、柔道の嘉納治五郎の名前が鮮明に記憶され、私の過去のあいまいな記憶とボンヤリつながっていたが、今回の美崎会長の文章で「私の習った絵の先生が、あの有名な嘉納治五郎の孫娘だった」という納得のいく事実にとどり着いたということになる。(了)

(補記)「市史研」の会報に寄せた文章が荒井さんの目にとまり、子供の頃の記憶を呼び起こしたとすれば大変喜ばしいことであり、その記憶を辿ることにより新しい事実が判明したことになれば貴重なことでもある。

荒井さんの文章をもとに嘉納家のご子孫に確かめたいところのことが分かった。

別荘の一番奥(道路からみて)に住んでいた生源寺家が昭和35年に我孫子を離れた後、そこに履正(嘉納治五郎次男)の長女夫妻、すなわち皆川七郎氏、都夫妻が2年間ほど住んだ。荒井さんが絵を習ったのは皆川夫人・都氏ということになる。皆川都氏は院展系の現代日本画家で、片岡球子氏の弟子にあたる。都氏が我孫子にいたのが、昭和35年から2年間ということだから荒井さんの記憶とも合致する。皆川夫妻は、その後、七郎氏の東北大勤務が決つて我孫子を離れた。それから現在までの経緯は不明だが、都氏は80歳を超えた今でもご健在で我孫子市内にお住まいのようである。

因みに、都氏の兄は嘉納行光氏。嘉納履正(講道館第三代館長)、百合子の長男として東京に生まれる。全く柔道経験のなかった父(履正)とは異なり幼少時に柔道を始め、初段に至つた(その後、第二次世界大戦後の占領期でGHQにより柔道が禁止されたため修業は断念した)。学習院大学卒業。父(履正)の後を受けて講道館第四代館長に就任した。

なお嘉納履正氏（治五郎の次男）は治五郎が亡くなった後、二代目館長の南郷次郎（治五郎の甥）の後を継ぎ、昭和21年に講道館第三代館長に就任、その後、全日本柔道連盟の初代会長に就任、全柔連が国際柔道連盟に加盟した昭和27年から同40年まで同柔道連盟の会長を務めた。国際柔道連盟会長在任中に世界柔道選手権大会を誕生させた。またアベリー・ブラウンデーIOC会長及び東京オリンピック組織委員会に請願書を送り、昭和39年の東京オリンピックで柔道を正式種目とすることに成功している。柔道を組織面で整備し国際的な普及に貢献した履正氏であるが、自身は実際に柔道を学んだことはない。

台東区の永昌寺境内にある「講道館柔道発祥之地」の石碑建立は履正氏によるものである。（美崎大洋）

## 銅像建立のご寄付はお早め!

昨年からスタートした「嘉納治五郎銅像建立」計画が既に約1年経過しました。今年の8、9月には朝倉彫塑館に鑄造作業を依頼する予定です。募金の期限を9月末と定めておりますが、現在、全体の約4割が集まっている状態で、銅像鑄造のみにかかる金額に達していない状況です。寄付を予定はしているが期限までに振り込めばいいと思いの方がいらっしゃる。とすればお早めにお振込み頂きたくお願します。

実際の銅像の大きさに応じて台座のデザインを考えます。その際、「ご寄付いただいた方のお名前を台座とともにどのように記録するか」ということについても具体的な検討に入っています。

◆振込口座名「嘉納治五郎銅像建立基金」

○郵便局 口座記号番号 00290-1-6-139276

○京葉銀行我孫子店、普通預金、口座番号 3255211

○千葉銀行我孫子支店、普通預金、口座番号 3830922

○千葉興業銀行我孫子支店、普通預金

口座番号 1129816

あじふより88号

## 破壊消防から近代消防へ!

稲葉 義行

徳川家康が江戸に幕府を開き、坂東の片田舎が世界有数の大都市に発展するとともに人口が急増し、「火事と喧嘩は江戸の華」といわれるように、火災も激増しました。そこで、幕府は火消制度を新設し、江戸城、武家屋敷の火災消火のため、大名火消、定火消を組織して消火にあたってきました。しかし、しばしば町家から出火し江戸の大半を焼く火災が発生したため、享保四年に町奉行大岡忠相は江戸の仕事を隅田川から西を四十七組（後に四十八組に分け隅田川から東を十六組としました。消火方法は破壊消防が中心で、鳶口や掛矢等で屋根・柱を破壊して延焼を防ぐ方法をとっていました。後に、龍吐水という手押し放水器具が使用されていますが、水圧が低いため火災を一気に鎮圧することはできなかったようです。明治時代に入り、定火消、大名火消は廃止され消防は警察組織に組み込まれ、終戦まで警察組織の一部局となっていた。消防力については、イギリスから蒸気ポンプを輸入、明治時代後期から大正時代にはイギリス、ドイツ、アメリカから消防ポンプ車を購入し消火能力の強化につなげました。また、救助はしご車のわが国における歴史は、明治三六年ドイツ製の木鉄混合の救助はしご車を輸入したことに始まります。伸梯の長さ約一八メートルで、昭和七年の白木屋百貨店の火災を契機に三三メートル級のはしご車が完成しました。終戦後、連合国最高司令部(GHQ)は警察制度の改革を打ち出し、日本政府との度重なる交渉により、昭和二年三月七日消防組織法の施行により、市町村がその責任において管理する自治体消防となった。

主な内容は、

- 一、市町村は、区域における消防の責任を有する。
- 二、市町村の消防に要する費用は当該市町村が負担する。

三、市町村は、消防の機関として、消防本部、消防署、消防団のうち全部又は一部を設ける。等である。

戦後の日本経済の高度成長と共に都市構造は高層かつ深層化し、危険物施設の増加等により、化学車や四〇メートル級のはしご車等の消防車を開発してきました。

消防は、人、機械、水が三位一体となり災害を防ぎ、市民の安全を確保する努力を続けています。

## 第134回史跡文学散歩報告

—「小石川植物園コース」—

稲葉 義行

前日の荒天が嘘のように晴れ上がった六月十六日、越岡講師以下十二名で小石川周辺を散策してきました。

巣鴨から地下鉄三田線で白山駅下車、当日は、白山神社の例大祭で、駅を出たところで地元町内会の神輿に出合い、威勢の良い掛け声に励まされ白山神社に参拝しました。境内は「文京あじさいまつり」で境内のいたる所で色とりどりの紫陽花が我々を迎えてくれました。白山神社の



祭神はイザナギ・イザナミノミコトで、歯痛に効く神様としても信仰されています。元禄年間に小石川の総鎮守となりました。鳥居をくぐった左側に中国の政治家「孫文」と「宮崎滔天(とうてん)」が腰かけたとされる石があり、「孫文先生座石」の碑が建っていました。二人はこの石に腰かけながら、中国の将来について語り合ったといわれています。

その他にも境内には「お富士さん」があり、富士参り

の参拝者が長い列を作っていました。

神社の裏手には東洋大学があり、裏門から入っていきましたが、高層の学舎が建ち校舎全体が巨大で明るい大学となっていて、昔の東洋大学を知る私には、想像を超えた施設となっていました。当日は、就職説明会等の行事があつたようで、私達も構内に入り、学校の沿革等を見たり、学生さん達と話をしながら休憩をさせてもらいました。対応して下さった学生さん達は皆さん明るく親切で好感が持てました。



学内を抜け、白山通りに出て、「太田蜀山人(南畝・なんぼ)」の墓がある「大念寺」を訪れました。蜀山人は江戸中期の文筆家で、狂歌・狂詩・洒落本等、文筆内容によりペンネームを変えていました。有名なペンネームは若い時から使用している「南畝」、五十歳代から使用した「蜀山人」で、「天明の三狂歌師」とうたわれ

ました。次に、「大念寺」の向かい側にある「浄土寺」には徳川家康の孫の「松平忠直」の供養塔があります。忠直の父親は徳川家康の子供で、豊臣秀吉の養子となつた「結城秀康」で、忠直は越前藩主でしたが、数多くの残酷な行為を繰り返したと伝えられ、その不行跡から改易処分となりました。菊池寛の「忠直卿行状記」の主人公となっています。

御殿坂を下り小石川植物園へ向かいました。「小石川植物園」の正式名称は「東京大学大学院理学系研究科附属植物園」といい、植物学の研究・教育を目的とする東京大学の教育実習施設です。当植物園は日本最古の植物園で貞享元年(一六八四年)に徳川幕府が設けた「小石川菓園」に源を発しています。園内には長い歴史を物語る数多くの由緒ある植物や遺構が残

つており、二〇一二年に国の史跡及び名勝に指定されました。園内にある植物では、裸子植物である蘇鉄に精子が存在することが発見された「精子発見の蘇鉄」、銀杏の雌の木から採取した若い種子に精子を発見した「精子発見の銀杏」、遺伝学の基礎を築いたメンデルが実験に用いた葡萄の分株の「メンデルの葡萄」、物理学者ニュートンが万有引力を発見したとされる「ニュートンのりんご」、明治三年(一八九〇年)大正天皇が皇太子の時に来園され命名されたといわれる「ユリノキ」、その他ハンカチノキ、スズカケノキ、メタセコイヤ等一五〇〇種程が植えられています。また、菓園当時の菓草乾燥場跡や旧養生所の井戸等の遺跡、甘藷試作の碑、徳川五代将軍綱吉の幼時の居邸であつた白山御殿と蝸川能登守の屋敷跡とに残された庭園が往時の姿をとどめる日本庭園。庭園の前には現在では、東京大学総合研究博物館小石川分館となつている「旧東京医学校本館」があります。昨年一〇月に「巨木・名木を訪ねる会」で訪れた時に台風の塩害で高木の葉が茶色く枯れてしまつていましたが、今は完全に回復し新緑溢れる景観となつていました。

植物園を後にして、「石川啄木終焉の地」を訪ねました。啄木は、明治四四年に小石川久堅町(現在は小石川五十一―一七)の借家に移りましたが、病状が進んでおり、朝日新聞社には出社できる体ではありませんでした。啄木一家で娘以外、本人・妻・母親は肺結核に罹つていました。啄木は明治四五年四月一三日、貧窮のうちに二七歳で生涯を閉じました。この地に東京都の旧跡として「石川啄木終焉の地」の碑が建っています。また、隣には、狭いながらも啄木記念館が建設されました。

最後に、「占春園(せんしゅんえん)」を訪れました。この辺りは、幕末までの二百年程の間、徳川光圀の弟を藩祖とする陸奥守山藩松平家の上・中屋敷でした。占春園は、この屋敷内にひらかれた庭園の名残りです。「林には鳥、池には魚、緑の竹と赤い楓、秋の月、冬の雪」と、四季それぞれの庭の美しさでその名を知られ、当時の江戸三名園の一つに数えられていました。明治

三六年(一九〇三年)、東京高等師範学校(戦後の東京教育大学、現在の筑波大学)が、湯島からこの地に移り、占春園は、校地の一部になりました。現在は、筑波大学附属小学校の自然観察園として、同校が管理し、区民にも開放されています。この園の池のほとりに、嘉納師範の銅像が建っています。一時、取り壊されていましたが、昭和三年に再建され現在に至つております。周囲は新緑に覆われ、名園の名に恥じぬ景観となつており、屋内にある銅像とは趣の異なる明るい雰囲気銅像になつております。帰りは占春園の近くにある丸の内線茗荷谷駅から帰途につきました。



文京区は全体に高低差の多い地区ですので、参加された皆様、急坂の上り下り本当にご苦労様でした。

## プロジェクト報告

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第25回

【新緑の水元公園】

実施日・四月二十四日(水)

稲葉 義行

平成の時代も残すところ七日となつた四月二十四日、雨模様の中、新緑を愛でるに葛飾区金町にある水元公園に行つて来ました。当日の参加者七名(女性一名)で金町からバスに乗り水元公園下車、公園までの水路には釣り人がのんびりと鮎やタナゴを釣っていました。水元公園は、都内二三区中最大規模の水郷公園で、元は古利根川の河川敷であつたところで徳川家光の江戸川改修事業により、古利根川は廃止されたため、小合村が江戸幕府の許可を得て埋め立て、耕作地と

して水を貯えて小合溜と称して管理してきたところだ。四月上旬には桜、六月には花しょうぶ、秋には桔梗や撫子等秋の七草が咲き競い、晩秋には紅葉した木々を鑑賞できる公園ですが、訪れた日は時期がずれていましたので、花菖蒲等の花は鑑賞できませんでしたが、公園内は新緑に染まり清々しい気分でした。

まず、園の東から入場し、ハシノキの並木を通り水元大橋を渡ると落羽松(らくろうしよう)が林立し、その先には、スダジイの林が太い幹を並べていました。小合溜に沿ってしばらく行くとメタセコイアの森があります。ここには千九百本程あり、十一月下旬にはレン



ガ色に色づき見事な景観となるそうです。落羽松とメタセコイアは幹も葉もよく似ていて見分けがつかなくなつたのですが、落羽松は木の先端が丸みを帯びていて、メタセコイアはこの先端が尖つているので見分けることが出来るかと教えてもらいました。森を抜けると、ボードサックチユアリーがあり、観察舎から川鶴、オオバン、アオサギ等多くの野鳥を観察することが出来ました。

その先の、水生植物園には根茎が人骨のように見えるコウホネが水面に葉を繁らせており、六月頃には水面が黄色い花で埋め尽くされるそうですが、今日は、開花の初期のため水面から黄色い花がちらほら顔を出していました。小合溜めの最端部には榎の並木があります。榎は幹に横筋が入っており、街道の一里塚や三里塚などに植えられていたため、道標の木といわれています。

小合溜めの最先端部には「水元かわせみの里」という休憩所があり、ここからは、カワセミを見る事が出来るそうです。

心配していた雨が降り出したので、急いで、境内に区の指定天然記念物となつているタブの木がある熊野神

社を参拝し、駐車場を抜けポプラ並木に出ました。ここは、幹に無数のコブの出ているポプラが公園道路の両側に一キロメートル程続き、見応えのある景色となつています。秋には、一帯が黄葉で壮観な風景となると思えます。その他園内にはシラカシ、ヤマモモ、タブの木、アキニレ等多種多様な樹木や草花が植わつていました。雨が強くなつてきましたので、園内の食堂で昼食にしました。

昼食後、バスに乗り、金町駅に行く途中で下車、金蓮院(こんれんいん)に寄りました。この寺院は永正年間(千五百四年から千五百二十年)創建と伝わる真言宗寺院で、境内には樹高十メートル余、幹回り三メートル、樹齢四〇〇年から四五〇年の区天然記念物として文化財に指定されている羅漢楨(らかんまき)があります。山門脇にはボタンの花が見事に咲いていました。

最後に、金蓮院に程近い葛西神社を訪れました。祭神は経津主命(ふつづぬしのみこと)、日本武尊(やまとたけるのみこと)、徳川家康で、境内には水害のため伐採されたが、再び自力で芽を出し成長した弥栄(いやさか)銀杏(俗称、曾孫生え銀杏)が区の天然記念物となつています。また、葛西囃子発祥の地とされています。今回の巨木・名木を訪ねる会は水元公園を中心に散策しましたが、周辺には大岡裁きで有名な「縛られ地蔵」の南蔵院、葛飾区金魚展示場、花菖蒲園等散策するには見どころの多い地域ではないかと思えます。

### 我孫子の巨木・名木を訪ねる会

#### 「樹木観察会報告」第26回

#### 【21世紀の森と広場の散策】

実施日・五月十七日(金)

牧田 宏恭

本日5月17日(金)は、松戸市が誇りにしている、「21世紀の森と広場」を散策した。

人口急増・都市化が急速に進む昭和50年代の後半に「将来に向けての松戸の姿を模索し・自然環境を守り・市民の生活環境を豊かに・松戸市の都市空間の新たな創造を目的に、時代を担う市民に継承する事業」

を掲げ、市のほぼ中央に位置する千駄堀地区の恵まれた自然環境(谷津・湿地帯)に注目、ここを守り育てる事が、その目的になうこととして、大規模公園の建設を決定。20世紀最大の事業として、輝ける未来に希望を抱き「21世紀の森と広場」と命名。昭和56年(1981)に事業着手、50ha(ヘクタール)余(≒50万㎡:凡そ15万坪)の広大な土地に10余年の期間を費やし、平成5年(1993)春に完成した。公園の中、北西に東京ドーム1個分の広さ(5ha:凡そ15万坪)を有する「千駄堀池」がある。池を主体に、テーマ別に広場や自然の観察、野草類の観察、それらを取り囲む緑豊かな森、博物館などで構成されている。

参加者総勢9名(うち女性2名)は、爽やかな5月らしい素晴らしい天気恵まれる中、最寄り駅「新八柱」に9時20分過ぎに到着。この催しのプロジェクトリーダー・佐々木侑さんの案内のもと、「日本の道100選」に指定された「さくら通」を進み、「森のホール21」前を通り程なく目的地「21世紀の森と広場」中央口脇の「松戸市立博物館」内を通り抜け、園内に入る。時刻は9時30分。見所満載の公園の散策は、「クヌギ」や「コナラ」「シデ」「杉」などが茂る「生命の森」の小径を進み「つどいの広場」へと向かった。

#### 1 つどいの広場

小径脇に、春の草花「キンラン」を見つめる。広場に沿って「ゴノキ」があちらこちらに可憐な白い花を付け(写真下)、「イロハモミジ」の若葉の緑が映える。足元には種々の雑草もいろいろ花を咲かせている。まもなく色とりどりの花を咲かせる「アジサイ」も並ぶ。

「つどいの広場」を過ぎようとする辺りに高木(樹高:約25m)か3本立ちの「ユリノキ」を見つけた。白い花を咲かせている。葉は絆纏(はんとん)形状が特徴である。

「トチノキ」「クスノキ」も多い。小さな白いいぼら下が



り状の花を付けた「エゴノキ」も目立つ。「シデノキ」は緑色の小さな傘を重ねたような小さな花を付け特徴ある縦縞がある幹が珍しい。

### 2 みどりの里

時刻は10時30分を過ぎ、「里の茶屋」が中央にある「みどりの里」に入る。視界が開け「ミズキ」の白い花が目に入る。珍しい「サンシュユ」もある。そして、「アカバサクラ」「ベニスモモ」(写真下)が小さな赤い実をつけている。実は口に含むと酸味が強い。「里の茶屋」前には小振りの「トネリコ」が3本立っていた。更に「ガマズミ」「エゴノキ」「シラカシ」「ヤマハゼ」が実をつけ、新芽と共に美しい。「ポピー畑」を通りパークセンター(公園管理事務所)内の可憐な花の雑草類の展示を見て、「千駄堀池」へと向かう。



### 3 千駄堀池

千駄堀池を右手に見ながら、花を付けた「シラカシ」の樹々が続く小径を進む。風景画を描いている人、池を眺める人、そして我々の列を心地よい風が吹き抜けて行く。

### 4 自然観察舎

千駄堀池の奥にガラス張りのモダンな「自然観察舎」がある。ここからは、谷津の生き物達や植物を双眼鏡で観察できるスペースがあり、休日には外に出て、観察ガイドの説明が受けられるとの事だ。



暫し、双眼鏡に見入る(写真右)。また、「冬虫夏草」菌類・キノコの1種、土中の昆虫類に寄生した菌糸から子

実体を作る。漢方薬に成る」の展示が目に入った。観察舎を後に小径を戻り「野草園」に向かう。

### 5 四季の山野辺「野草園」

「クマシダ」の樹々、小さなアヤマの花に似た「シヤガ」を見ながら「野草園」に到着。時刻は12時少し前。野草園は山・草原・湿地・水辺など変化に富んだ様相で、水草の「子ガバオモダカ」などの水生植物、野草、樹々、鳥の観察にも向いているなど多様な自然の凝縮地域のようなだ。「セリ」の群生、水路に見る多数の「シジミ?」の貝殻、「ウグイスカグラ」の木、「ヒサカキ」雌雄異株、サカキより葉は小振り」等を観察後、昼食をカフェテラスで摂った。

### 6 水と木陰の広場「光と風の広場」親緑の丘

昼食後、13時前に「水と木陰の広場」で、環境の違いが生育に大きく影響する「カツラ」について学ぶ。続いて公園を縦断する「高架橋アーチ」を潜り「光と風の広場」に入る。広場を囲む木立から湧き出る水辺に「グレソンの」群生があり、覆うように「カエデ」が茂る。

ここから、「21世紀の森と広場」開園記念モノUMENT(写真下)を見ながら、緑生い茂る木立を左手にし、「親緑の丘」を抜け「復元竪穴式住居」横を通り、本日の入り口「博物館」に戻る。



「園」を約一周し、時刻は13時35分過ぎ、約4時間(昼食含む)の散策であった。快晴に恵まれ、直射日光は眩しく気温も上がっていたようだが、湿度が低い上に、緑の木立が日光をさえぎる森林浴のコースは、快適なものだった(公園内約1万3千歩の行程)。

散策を終え、松戸市がここに開園した意図は、素晴らしい公園として結実、広く・永く後世に貴重な自然環境を継承できる空間であると多いに納得した次第である。以上

### 第十七回短歌の会(最終採択の一首)

五月二十九日実施

花よりも幹こそ長き歴史あり  
桜樹は確と根を下ろしたり

村上智雅子

何気なく「雑草」と言ふを聞き咎め  
名無き草などなしと師は言ふ

美崎大洋

うららかなる上野の森にユリノキは  
伝統文化を見守りて立つ

飯高美和子

矢車草のむらさき花に思ひ出づ  
遠きかの日に恋潰えしを

山崎日出男

連休の余勢はわが家に波及して  
遠出ひかえし子や孫が来る

納見美恵子

恥じらいの乙女にも似て芯赤く  
白じらと咲く大島桜

佐々木侑

老いたるを逆手にとりて思いきり  
わがまま通し生きむと決めぬ

藤川綾乃

農盛んなる友の故里の道の駅にて  
妻に青瓜を買ひて帰りぬ

三谷和夫

近隣に断りもなく散布せし  
ひなげしの種ここぞと咲けり

藤井吉彌

## 第84回百人一首を楽しむ会

四月二十六日実施

## 今月の歌

かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞ更けにける (大伴家持 6番)

宮中の御階においている真つ白な霜を見ると、夜も更けたのだと感ぜられる。中国の伝説では、七夕の夜、牽牛と織女の、年に一度の逢瀬を守る為に、かささぎがその翼を広げ天の川に橋をかけるのだという。

カササギ(鵲)は、スズメ目カラス科に分類される鳥類の一種。別名カチカラスもしくはコウライカラスとも呼ぶ。中国語では「喜鵲」と表記。

(大伴家持について) 718年大伴旅人の長男として生まれる。763年、藤原良継の乱に連座して薩摩守に左遷され、770年に帰京。782年水上川継の謀反事件に連座して官位を解かれ、京外に追放される。

784年、持節征東將軍に任じられて奥州に赴く。翌5年、多賀城で死去。68歳。

(解釈) 解釈には他にいくつかの説が存在する。

七夕には織女を渡すといつかささぎの橋。祖父・父ともに主上に寵遇され大納言まで出世した。まさに大伴家の夏の時期であったのであろう。しかしいまや大伴家は冬の時代。かささぎの橋は霜に凍りつき渡れないように、私は中納言で終わり。私の人生は闇の中であるな。ところで、私の姿は「かささぎ」のようにだ。悪人(全身まっ黒)と思われるが、本当は無実なのに(腹は白)……。

## 今月の雑学

## 1. 陰曆、太陽曆とその換算について

## ① 太陽曆への変更

明治5年(1872年)11月9日、明治政府が、今まで使用していた太陰太陽曆(天保曆)を廃止し、新しく太陽曆(グレゴリオ曆)を採用すると発表をした。具体的にはこの明治5年の12月3日が明治6年の1月1日になることになり12月2日が大晦日になった。2日間だけの12月を過(こ)してからお正月ということにした。

## ② 西行法師

ねかはくは 花のしたにて 春しなん

そのきざらきの もちつきものうら (山家集)

西行法師は歌のとおりに文治6年2月16日(陰曆)、積尊涅槃の日に入寂したといわれている。享年73。

この日は太陽曆に直して計算すると、1190年3月23日になり、桜が咲いても不思議ではない。

## ③ 赤穂浪士の討ち入り

赤穂浪士が吉良邸に討ち入ったのは、元禄15年12月15日(12月14日)が一般的だが日が変わっている(寅の上刻とされている。今の太陽曆では1703年1月31日の午前4時ごろになるので、1年でもっとも寒い時期のしかももともとも寒い時間帯ということになる。(美崎 大洋)

## 「我孫子市文化交流拠点施設建設構想」についての市の現状

芹澤 正子

我孫子市は現在、「我孫子市文化交流拠点施設建設構想」を策定中である。

中間報告としての、平成26年度の「文化交流拠点施設整備調査研究報告書」と、新たに同28年6月に策定した「我孫子市公共施設等総合管理計画」で整理した市全体の公共施設に関する今後のあり方や、さらに同29年10月に策定した「新田地区土地利用構想」で示した当該地区の土地利用の考え方が、これらの視点を踏まえ、「文化交流拠点施設」とは

【文化施設に交流という付加価値】を持たせることで、「にぎわい」を創出する施設であることを改めて定義した。また、7ヶ所の建設候補地のうち、最も評価の高かった【高野山新田地区】を選定し、建設予定地を手賀大橋から「水の館」までの範囲に設定した。市庁舎の在り方については、令和2年度までに策定する試算を行い、建て替えるか、最大80年まで使用するか、詳細に分析する予定であり、建設検討中の場所にするとは考えていないというのが、市の現状である。

【文化交流拠点施設建設構想案】は、5月26日から5か所で開催された「市政ふれあい懇談会」において、3案が提示された。その内容は①1000席の大ホールと300席の小ホールを有するもの②600〜800席の規模ホールがひとつのもの③1500席の大ホールと300席の小ホールに市民の意見を最大限盛り込むというもの。それに対し参加者から様々な意見が出た。「直ぐにでも欲しい」「財政の厳しい中、施設建設は検討も中止して欲しい」「市民の意見を取捨選択して組み合わせたらどうか」等々。

私は6月議会で現状を踏まえた上で次の2点について質問をした。

①今回、建設構想案の3案が提示され、今後とも丁寧に、多くの市民の意見を聞いていくとして、様々な観点からの資料が示されている。ただ、その中に、今後の水害対策費などの概算が明示されず、空欄になっている。大きな工事がまだ手つかずで残っているのは承知しているが、少なくとも取組中のものの残額だけでも100億円を超えるのではと推察されるので、「推定」だと断わった上での金額の明示を提案するというのは如何でしょうか？

②現在、文化施設建設を検討中の場所に隣接している「あびこん」との関連にも触れていただきたいと思いますが如何ですか？(ここは3年間と期限を限っての事業なので、現実には厳しいところではあると思いますがどうでしょうか？)

## 我孫子市杉村楚人冠記念館企画展

嘉納治五郎と手賀沼く幻の東京オリンピックピク

クをめぐって

7月9日(火)〜10月6日(日)

手賀沼を愛した嘉納治五郎、嘉納を慕う我孫子の人びと、そして生まれた「東京オリンピックピック競技を手賀沼へ」の声 幻と消えた東京オリンピックピクをめぐる手賀沼の物語

関連企画 特別展示「嘉納治五郎と我孫子」

7月2日(火)〜31日(水)於アビスタ2階展示ケース 柔道家・教育者として名高い嘉納治五郎の「我孫子の先人」としての側面を紹介

楚人冠あての治五郎直筆の手紙四通を展示

文学掲示板

令和元年九月展示作品(文学の広場)

劔岳より水平線を見下ろせば  
焼き尽くすこと夕陽の沈む

我孫子 藤井 吉彌

空に向ひ陶板の句碑屹立す

詩を読む声の風に流れ行く

我孫子 山崎 日出男

木隠れに手賀沼望む嘉納別荘跡

君が心のベンチ置かるる

春日部 佐々木 かつ子

草とりに蟬のぬげがら二つ見ゆ

来年頃は孫のおもちやに

流山 高森 恵子

曼珠沙華葉見ず花見ず天蓋花

紅六弁花かんざし刺刀

我孫子 佐々木 侑

父逝きし過ぐるごと早や十年

「未知の世界」と父は言ふかも

我孫子 美崎 大洋

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和九年 夏

立話鮭がないてやめにけり

苔水の石にしみ出る氷室かな

稲上げてそれと別(わかれ)を知らせけり

妄執の一絲をつけぬ裸形(らぎやう)かな

墨の香の書樓に籠る初夏の雨

磯に乾く島の盆供の鶏頭花

第135回史跡文学散歩のお知らせ

「目白界隈に嘉納治五郎の足跡を求めて」

学習院は、明治十五年に嘉納治五郎が東京大学を出て初めて教師の職を得た学校です。以来、教頭にもなり明治二十二年に欧州視察にいたるまでの嘉納についての記事が当時の教務日誌(学習院アーカイブス所蔵)に書かれています。因みに、三男五女を得た嘉納の長女から四女までは学習院女子部の出身です。

日本女子大学では、嘉納は明治二十年、広岡浅子からの要請で、大隈重信、渋沢栄一などと共に創立委員に加わり、女子大創設に貢献しました。嘉納の五女は日本女子大付属高の出身です。同大学ではゆかりの成瀬記念講堂、成瀬記念館と新装なった図書館を見学します。

早稲田大学では、嘉納は明治三十年から暫く柔道部の指導にあたっています。来春、我孫子に建立予定の嘉納治五郎の銅像は文化勲章を受章した彫刻家・朝倉文夫の制作ですが、早稲田大学構内に堂々と建つ大隈重信像も同じ朝倉の作品です。時間が許せば早大歴史館も見学の予定。(小雨決行)

嘉納治五郎の教育者としての一面を探る散歩には非お気軽にご参加ください。

- 1. 日時9月25(水)9時、我孫子駅改札口内集合。
- 2. コース 目白駅一学習院大学一日本女子大学一村川堅固旧邸一久保田空穂旧邸一早稲田大学

3. 講師・ガイド 村上智雅子氏(当会副会長)

4. 参加費 会員 無料、非会員 500円

5. 申し込み TEL 060-593333-2909

シヨートメールも可(村上まで)

今後の行事予定

「放談」(24日)

日時 8月10日(土) 14時〜16時

会場 市民プラザ第一会議室

講師 稲葉 義行氏(当会役員)

演題 「破壊消防から近代消防へ」

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込みTEL&FAX(七八五)〇六七五 佐々木まで  
(「あびこ」日より88号「3」ページを参照ください)

□ プロジェクト「短歌の会」予定  
7月30日(火) 13時30分〜第十八回短歌の会  
けやきプラザ 10階小会議室

□ 「市民のチカラまつり2019」企画及び展示で参加  
9月14日(土)、15日(日)於、けやきプラザ  
14日(土)9時〜12時半 習字実践(治五郎の書)  
於、8階第2会議室

□ 「友好団体などの主催・共催する催しもの」  
○我孫子ガイドクラブ「鵬外と漱石の終活」  
講師 立堀 隆三氏(元帝京大学教授)  
7月13日(土) 10時〜12時  
於、市民プラザ第一会議室  
申込み 04-7184-0210(新井まで)

○NPO法人ふれあい塾あびこ公開講座  
「我孫子宿の魅力再発見」  
講師 中込力三氏(ふるさと我孫子ガイドの会会長)  
7月18日(木) 14時〜16時 於、市民プラザホール  
参加費 700円(定員100名)

□ 展示内覧会のお知らせ  
7月12日(金) 10時から(楚人冠記念館) 11時  
から(白樺文学館) 希望者は直接現地に(無料)

編集後記

東京2020オリンピックの聖火リレーが我孫子を通ることが決定した。5年前から東葛地区6市でリレーのコースに加えるよう要望書を出していたようだ。選ばれた理由が震災被害地としてか、嘉納治五郎の縁によるものかは不明▲聖火リレー最終日の7月4日(土)、時間やルートの詳細は未定だが、手賀沼大橋から「手賀沼ふれあいライン」を通るコース案が想定される。計画はその頃には嘉納別荘跡地に治五郎の銅像が建っていることになる。沿道の盛り上げ方法も皆アイデアを出していきたい。(美崎)

平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)決算書

A 一般会計

(単位:円)

収入の部	予算額	決算額	摘要	支出の部	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	95,296	95,296		<総務費>			
年会費	167,000	163,000	(78名)	(1)会議費	10,000	9,858	
参加費	45,000	46,900		(2)総会費	40,000	14,105	
意見交換会参加費	131,000	0		(3)通信費	22,000	20,644	
雑収入	20,000	7,000	出前講座	(4)事務用品費	15,500	15,119	
預金利息	0	23		(5)市民活動メッセ	15,000	12,685	
				(6)意見交換会経費	131,000	0	
				(7)雑費	15,000	13,655	
				計	248,500	86,066	
				<散歩部会費>			
				(8)案内費	20,000	19,000	
				(9)資料費	2,000	0	
				計	22,000	19,000	
				<手賀沼部会費>			
				(10)美手連会費	5,000	0	
				(11)雑費	5,000	0	
				計	10,000	0	
				<研修部会費>			
				(12)会場費	6,500	6,520	
				(13)資料費	15,000	15,000	
				(14)雑費	15,000	9,026	
				計	36,500	30,546	
				<広報部会費>			
				(15)消耗品費	13,000	13,026	
				(16)発送費	59,000	29,604	
				計	72,000	42,630	
				<予備費>			
				(17)四十周年事業基金繰り入れ	0	0	
				支出計	389,000	178,242	
				(18)次期繰越金	69,296	133,977	
合計	458,296	312,219		合計	458,296	312,219	

B 特別会計

1 四十周年事業基金

(単位:円)

四十周年事業積立金	350,000	定額預金	350,000
-----------	---------	------	---------

※ 定額預金のため、利息は解約時に表示される。

2 我孫子協本陣基金会計

協本陣基金会計繰越金	264,302	銀行預金	264,325
預金利息	23		
合計	264,325	合計	264,325

貸借対照表

(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
現金	8,092	一般会計繰越金	133,977
千葉銀行普通預金	13,079	四十周年事業積立金	350,000
千葉銀行定期預金	264,325	脇本陣基金会計繰越金	264,325
郵便局普通預金	106,806		
郵便局定額預金	350,000		
郵便局振替口座	6,000		
合計	748,302	合計	748,302

以上の通り、適正であることを認めます。

平成31年4月25日

会計監査 芦崎 敬己

同 飯高 美和子



我孫子の文化を守る会

令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)予算(案)

A 一般会計

(単位:円)

収入の部	前期決算額	予算額	摘要	支出の部	前期決算額	予算額	摘要
繰越金	95,296	133,977		< 総務費 >			
年会費	163,000	156,000	(78名)	(1) 会議費	9,858	10,000	
参加費	46,900	46,000		(2) 総会費	14,105	33,000	
意見交換会参加費	0	131,000		(3) 通信費	20,644	22,000	
出前講座講師収入	7,000	8,000	16回	(4) 事務用品	15,119	15,000	
預金金利	23	23		(5) 市民の子カラまつり	12,685	13,000	
				(6) 意見交換会経費	0	131,000	
				(7) 出前講座資料代	0	8,000	
				(8) 雑費	13,655	7,000	
				計	86,066	239,000	
				< 散歩部会 >			
				(9) 案内費	19,000	26,000	
				(10) 資料費	0	2,000	
				計	19,000	28,000	
				< 手賀沼部会 >			
				(11) 美手連会費	0	5,000	
				(12) 雑費	0	1,000	
				計	0	6,000	
				< 研修部会費 >			
				(13) 講師謝金	15,000	15,000	
				(14) 会場費	6,520	6,500	
				(15) 資料費	9,026	10,000	
				計	30,546	31,500	
				< 広報部会費 >			
				(16) 消耗品費	13,026	13,000	
				(17) 発送費	29,604	35,000	
				計	42,630	48,000	
				< 繰越金 >			
				(18) 四十周年事業基金繰り入れ	0	50,000	
				(19) 次期繰越金	133,977	72,500	
				計	133,977	122,500	
合計	312,219	475,000		合計	312,219	475,000	

B 特別会計

1 四十周年事業基金

四十周年事業積立金	400,000	定期預金	400,000
合計	400,000	合計	400,000

2 我孫子脇本陣を引継ぐ文化事業基金

脇本陣を引継ぐ文化事業積立金	264,325	定期預金	264,348
預金利息	23		
合計	264,348	合計	264,348